

ドライバーの交通マナーに関する意識調査

金沢大学工学部 正会員 高山 純一
学生員○小野田 敦

1 はじめに

モータリゼーションの進展にともない免許取得者が増加する中で、近年特に交通マナーの低下が取りざたされてきている。交通マナーの低下は交通事故につながるケースが多いことから、それは一つの社会問題ともなっている。

このような状況の中でドライバーの交通マナー及び道路交通に関する諸問題を明らかにし、今後の交通マナーの向上と交通環境の整備に役立てることを目的に、JAFが主体となって、石川県内のドライバーを対象にアンケート調査を行った。本報告は、その結果をまとめたものである。

2 調査の方法及び対象者の属性

アンケート調査は、JAF会員および一般県民（免許取得者）を対象に、JAF会員については無作為抽出した会員に対し機関誌を用いて配布した調査票を郵送で回収する方法で、また一般県民についてはやはり無作為抽出した人にJAF石川県支部が自動車または自動車部品販売店などを中心に配布回収する方法により行ったものである。

調査票回答者の属性は図-1～4のようになっている。

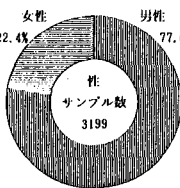


図-1 調査対象者の属性 (性別)

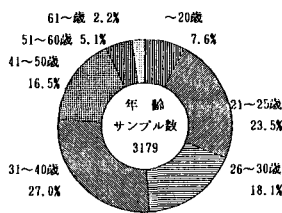


図-2 調査対象者の属性 (年齢)

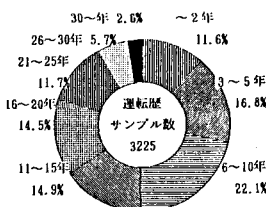


図-3 調査対象者の属性 (運転歴)

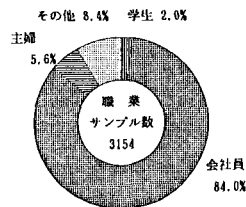


図-4 調査対象者の属性 (職業)

3 調査結果の分析

3-1 調査対象者の属性別にみた分析

(1) 自分の交通マナーについて

男女とも自分の交通マナーに対する評価は似ているが、多少男性の方が自分の交通マナーを良いと思っている傾向がある。また年齢が高くなるほど自分のマナーが良いと思っており、この傾向は運転歴別にみても同様である。

一方職業別にみると、学生は約4割が自分の交通マナーを良くない方だと思っているのに対して、会社員をはじめとする社会人では約8割が良いと思っている。

(2) 他人の交通マナーについて

他人の交通マナーに対しては女性よりも男性が、高齢者よりも若年者が他のドライバーを良くないと評価する傾向が見られる。職業別にみると他人のマナーに対して最も厳しい評価をしているのは学生で、次いで会社員、主婦、その他の職業となっているが、一番甘いその他の職業でも7割の人が厳しい評価をしている。全体的に自分に対する評価は甘く、他人に対しては厳しいという傾向が読み取れる。

交通マナーが悪いと思う対象として最も多いのは若者ドライバー、次いで女性ドライバーとなっている。男女別に比較すると男性の女性ドライバーに対する印象が、また女性の職業ドライバーに対する印象が悪いのが目立つ。職業別に比較すると、学生は職業ドライバー、若者ドライバーの順に、また会社員及びその他の職業の人は若者ドライバー、女性ドライバーの順に厳しい評価をしている。以上のことから、交通マナーが悪いと思う対象は若者・女性・職業ドライバーに集中していることが伺える。

(3) 自分の周囲における悪いマナーについて

周囲のドライバーの交通マナーの悪さを感じる時間・地区・場所・そして悪いマナーの目立つ行動とマナーの種類についても分析を行った。

マナーの悪さを感じる際には男女とも4割前後が「いつでも同じ」としている他は「朝夕の

通勤時間」がやや目立っている。年齢・運転歴別にはそれほど顕著な傾向はみられないが、職業別にはやや特徴が現れている。「いつでも同じ」がいずれの職業でも高い比率を示しているが、特徴的には学生は「車の少ない深夜」、会社員は「朝の通勤時間」、主婦は「昼中」が比較的高くなっている。

マナーの悪さを感じる地区は男女別では大差がないが年齢層別の違いは大きい。25歳以下の若年層では約半数が「繁華街の表通り」をあげるのに対し、40・50代では「郊外の道路」をあげる人が増えている。職業別では学生・会社員が「繁華街の表通り」、主婦あるいはその他の職業の人は「郊外の道路」が多くなっている。

マナーの悪さがでる場所は全体に「わき道との合流地点」と「信号のない交差点」が多いが、属性の違いによる差は見られないようである。ただ、職業別に見たときにはマナーの悪さがでる場所の指摘の大小較差が学生は15%と小さいのに対して、主婦は30%とかなりの差がみられる。

マナーの悪さがでる行動で圧倒的に指摘が多かったのは「車線変更」で、これは属性を問わず高い割合を示している。次に多かった「追い越し」では属性による違いがみられ、女性の指摘が45%と男性の30%よりかなり高い。年齢・運転歴別に見ても51歳以上あるいは21年以上でその指摘の比率が高くなっている。また高齢者ほど「合流」を指摘する比率が小さくなっている。職業別に見ると学生と主婦の指摘に違いが目立ち、学生が「追い越し」主婦が「駐車」及び「右・左折」を指摘する比率が高い。

よく目につく悪いマナーのうち最も多いのが「合図が遅い・出さない」、次いで「無茶な割り込み」「周囲の流れを無視して走る」となっている。男女別では女性の「割り込み」と男性の「流れを無視」に対する指摘が、年齢別には高齢者ほど「信号の変わり目の進入」「スピードの出しすぎ」に対する指摘が多い。この傾向は運転歴別でも同様であるが、更に21年以上のベテランドライバーは「流れを無視」に対する指摘が最も多い。職業別にはかなりの違いがみられ、学生は「割り込み」を指摘する比率が最も高く、次いで「合図」、会社員・主婦は「合図」の次に「割り込み」が高くなっている。会社員

と主婦の違いは会社員は「流れを無視」主婦は「スピード」に対する指摘がそれぞれ30%と高いことである。その他の職業では「合図」に対する指摘が60%以上とかなり高くなっている。

3-2 自分の交通マナーに対する評価別に見た分析

自分の交通マナーを良い方だと評価するドライバーと良くない方だと評価するドライバーとでは、他人の交通マナーに対する評価などに違いがみられることが予想されることから、自分の交通マナーに対する評価別に分析を行った。

交通マナーに対する認識の甘い人は自分に対しても他人に対しても甘く、厳しい人は自分にも他人にも厳しいことがわかる。(図-5)

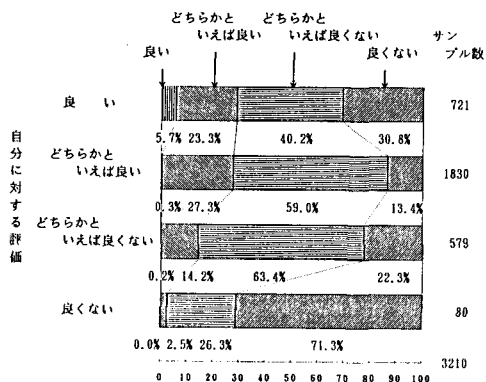


図-5 自分の交通マナーに対する評価別に見た他人の交通マナーの評価

4 結論

今回の調査では特に郵送法の分の回収率が非常に低かったが、その回答には意見記入欄に多くの意見が記されており、その内容から交通マナーへの意識の高さを伺い知ることができた。しかし、ドライバー全体でみたとき意識の持ち方にはかなりの隔たりがあることも事実であり、したがってドライバー一人一人に交通マナーに対する意識を持たせるような方が必要であろう。

最後に、アンケート調査に御協力頂いたJAF石川県支部並びに関連機関に対し、心から感謝します。

参考文献；「交通マナーに関するアンケート調査報告書」平成元年二月。JAF石川支部